

創立十周年記念式

漢たる筑紫次郎の流れは永久にその齡を保ち、篠山かざる古松は千歳にその緑を香るとも、小森野ヶ岡に秋訪れる十度吾等が九州醫學専門學校も早や十星霜の齡を重ね、今日（昭和十四年十月十六日）此の喜びの日、十周年記念日は流れ來つたのである。

此の日秋雨しとく／＼とそぼふる中、入場を告ぐるラツパの響きと共に、健兒七百餘ほのかなる微笑を傘に包み、會場たる武徳殿へと急いだ。

愈々待ち望んだ十周年記念式典の時は刻一刻と迫る。會場を古色蒼然たる篠山神社の下に立つ武徳殿にトし、今や記念の式典は舉げられんとして、滿堂聲をのむ。やがて來賓知名の士設けの席に納まり、その中には第十二師團司令部附池ノ上少將、軍醫部長光武軍醫大佐、九大教授大野章三氏、小野興作氏、福田得志氏、九州齒科醫學専門學校長永松勝海氏、福岡高等商業學校長安部新氏、久留米高等工業學校長小林俊次郎氏、志岐中將、田中少將等の御顔が見受けられた。次いで教職員、卒業生、表彰勤続者肅然として各々定め席へ、場内板の間に溢るゝ七百の面持は、折からの照燈に照り映えて通常見得べからざる雰圍氣を反映させる。

一同敬禮裡に式は始まり、三池常務理事先づ起ち、來賓各位の來場に感謝して開式の詞を述べれば、全員起立して國歌を奉唱し、はるか東の方宮城を拜し奉り、終りて地下永眠の英靈に衷心默禱を捧げることや、しばし、一堂寂然として咳

一つなく森嚴の氣漲る中に溝口校長の勅語奉讀の聲のみ獨り響きて一層森嚴を増す。時正に十時三十分、かくて溝口校長再び起ちて今日の盛會を深謝し、はるか戦線に馳驅する勇士の勞苦を偲び、ついで本校沿革の概略を語り且つ將來の抱負を説いて式辭を終る。

式辭

本日本校創立十周年記念式典を舉行するに當り閣下並に各位の御貴臨を得まして御挨拶申上ぐることは不肖の光榮とし欣懷に堪へざる所であります。

幸ひにも本日は天恩にも恵まれ天は愈々高く菊の香も芳しく又筑水からの涼風も一入颯々たるこの清秋の一日閣下並に各位と同志卒業生諸彦のかくも賑々しい御來光は式典の祭壇に賜はつた何よりの尊い飾物であり、本校を代表し高い光榮と廣い歡喜、そして深い感謝を感じる次第であります。謹みて厚く御禮申上げます。尙今日銃後の式典を舉行し得まする幸福は遙か異郷の地に奮戦力闘してある將兵諸氏の庇護であり、ともに、十分に感謝を捧げたく存じます。

さて本式典は本校晴れの十周年祝賀でありますので簡單ながらも本校の誕生から今日までの歴史の要點だけ述べさせて頂けば、大正の末頃文部省統制論によりまして官私立醫專總べて大學に昇格したのであります。が、理想案としての是非は兎も角と致しまして當時の人口一萬に對し醫師七人半といふ國民生活の實情は自然醫師の急速な大量補充を要求し、尙社會實生活に不便少なからざるものがありません。ため、醫專の存在といふ事が必然國家醫療上の重大な課題となつたのであります。

こゝに於て昭和二年七月不肖私が創立委員長となり縣下醫師團諸君を中心と致しまして醫專設立に邁進致したのであ

りました。當時一部人士の中にはこの計畫を時代逆行なりとの嘲笑もありましたが時代の要求は久留米福岡若松の間に醫專誘致の激烈なる競争が起り遂に現在の久留米市に決定致しました。爾來市並びに石橋家の理解ある御援助をうけ翌三年四月開校式をあげ今日茲にかくも成長せる本校十周年記念式典を舉行し得ますことは創立當時を回顧し轉々感慨に堪へぬものがあり、又市及び石橋家への感謝は醫專が隆盛になればなる程大きなものを感じ入るのであります。而して一面残念な事は創立の苦心と努力を共にした諸君が、姿を持つて出席できぬのであります。恐らく形なきまゝに、この盛大な式典に天上より参加し祝福してゐることであらうと信じます。

十年といへば未だ短い年月であるかも知れませんが、然し官公立學校と異なる本校にしますれば十年必ずしも短かしのいへぬ月日でありませう。誕生までの辛苦それから今日までの成長の苦勞、實際並々ならぬものであつた事は創立委員長から理事長又は校長として驚馬に鞭打つてきました私の偽らぬ體驗であります。

この難路を乗り切り今や名實ともに全國第一の醫專として自他ともに許すに至りました事はたゞに人の和地の利天の時の三條件を兼ね備へた以外のものではないと固く信じます。財團及び教職員諸氏の優秀なる指導と任務の遂行、卒業生諸君の社會的貢獻と信用、而して學生諸君の眞摯なる勉強と錬磨及び本校に理解ある諸彦の外都からの有形無形の御支援と御援助總べてが渾然融和一體となつた結實であり、言ひ換へれば九醫精神の發展的發露が今日の大であり、今日の喜びであります。

今や我國は東亞新秩序形成といふ歴史的的大業に直面してゐます。この新世界史の創造こそは我々時代人に與へられた名譽ある義務であり、祝福すべき特權であり、醫業報國の道も亦今日より重大なるはなしと痛感致します。已に大陸の戦線にあるひは銃後に、戦傷病士の治療又は勞働力の再生産に本校卒業生の活躍は世人の齊しく認める所ではあります

が、新秩序形成には前幾倍かの國民的努力が要請されてゐる時局下におきましては、我々もこの記念祭を單なる過去の追憶の祝ひで止めることはせないうで、未來への出發祝ひに存じたい。即ち十年間の終足點といふより寧ろ十一年からの發足點として意義あらしめて雄飛したく切望してゐます。これ體て創立の趣旨にも副ひ、尙又社會に奉仕すべく最善の努力を拂ひ、かくしてこそ使命達成することを得るのであります。

さて本年は創立十一年目ではあります、昨年は事變當初でありましたので自肅延期致したのでありますが、今日は已に長期建設戦となりました上は、我々も亦その覺悟と決意をいたしまして昨年の計畫をすつと簡素に変更致しましたので、あまりにも粗略に過ぎ、この御粗末の御饗應にては當然禮を失するとは存じながらも詮方なく、されど過去の恩恵に謝し將來の庇護を希ひ祝典を催しましたので、その點よろしく御諒承の上、我等の微意のある所を御汲みとりくださる一場の歡をおつくしくだされん事を希望致します。

以上蕪辭を述べて挨拶と致します。

昭和十四年十月十六日

九州醫學專門學校長 溝 口 喜 六

次いで來賓の祝辭に移り、

- 福岡縣知事 兒玉九一閣下 祝 辭(代讀)を皮切りに
- 九大醫學部長 大平得三氏 祝 辭
- 久留米市長 石橋徳次郎氏 祝 辭(代讀)
- 市會議長 吉田清氏 祝 辭

縣會議員 布江清作氏 祝 辭
縣醫師會長 大里廣次郎氏 祝 辭

福岡縣内知名の諸氏相繼いで、起ち我が校十星霜の隆昌を讃へて祝の詞を述べ。

祝 辭

本日茲に九州醫學專門學校創立十周年の記念式典を舉行せらるゝに當り一言祝意を表するは余の最も欣幸とする所なり。

本校が昭和三年の創立以來學校當事者の獻身的努力と地方人士の熱心なる後援とにより年と共に堅實なる校風を培ひ諸般の設備を整へ卒業生を出すこと既に一千五百名に及び以て我が國醫學界に貢獻さるゝところ實に多大なるものあるは世の齊しく認むる所にして洵に邦家の爲慶賀に堪へざるなり。

惟ふに支那事變は既に長期建設の段階に入り皇軍の勇士は陸に海に空に善戰健闘能く赫々たる武勳を輝かし銃後の國民亦盡忠報國の赤誠に基きて各々其の分に努む皇國醫學亦此の事變を契機として一段の躍進を遂げ傷病兵醫療の上には勿論廣く世界の醫學界のため多大の貢獻をなしつゝあり。此の秋に當り本校が創立記念の式典を舉行せられ温故知新靜かに既往の實績を回顧し更に將來の一大伸展を期し以て醫學教育報國の誠を輸さんとせらるゝは、斯界のため洵に慶賀の至りに堪へず。希くは關係者各位協力一致今後益々校運の興隆を期せられん事を。一言所懐を述べて祝辭とす。

昭和十四年十月十六日

福岡縣知事從四位勳三等 兒 玉 九 一

祝 詞

九州醫學專門學校に於かれましては本日の佳辰を卜して創立第十周年の祝典を擧げられます事は同様の仕事に従事する私共と致しまして誠に慶賀に堪へざるところであります。

創立の難局に當られた方々を始め本校をもり立て、今日に至られました方々の御心中の御よろこびさこそと深く御祝ひ申し上げます。思ふに醫學及醫人は如何なる時と雖も必要ならざるはありませんが、特に昨今東亞曠古の大業を達成するに當り鎮撫融和等文化的施設の代表的なるものは實に醫學及醫人の活動であります。然も國內の醫人の大量を擧げてこれを前線に送れば國內に於ける不安を増大致しますし國內に缺陷なからしめんとせば大陸は直に困却に陥るのであります。

此時に當つて本校の如き續々として醫人を社會に送り出す事は、定に是天の時、諸兄亦當局の熱意を體して邦家のため聖業の達成を望みとして奮闘せらるゝに於ては本校の將來は實にますます隆々たるものあらん事は私の信じて疑はざる所であります。

貴専門學校の過去を偲び將來を思ふて御よろこびにたへず茲に謹みて蕪辭を連ねて祝詞と致します。

昭和十四年十月十六日

九州帝國大學醫學部長 大 平 得 三

祝 辭

校運隆々たる九州醫學專門學校本日として創立十周年記念式典を舉行せられます事は私の誠に欣快に堪へざる所で

あります。

三八二

顧みれば昭和二年本校が時代の要求として本縣刀圭界各位に依り設立の必要を強調せられ創立を企劃せらるゝに至るや本市市會議員商工會議所議員より成る勸業會は勿論、各種團體一般市民に至るまで共に本市に設置せられん事を熱望して精神的に物質的に本市相應の誠意を披瀝し一面創立委員各位の深き御理解と御同情とに依り遂に願望實現當地に決定せられました喜びは今尙市民の齊しく記憶に新なる所であります。

抑々創業の苦心困難と其の後の興隆發展に對する當事者の努力とは容易に他の想像を許さぬものがあるのであります。乃ち昭和三年四月本校開校以來今日に至るまで校舎の設備教育の内容及び附屬病院の新設擴張等に年を追ふて充實し優に天下に誇り得るに致りました事之一に本校役員職員各位協力一致奮闘努力の結果に外ならぬのであります。

今や千有餘名の卒業生諸君内地は固より滿鮮臺灣各地に於て其の蘊蓄を傾けて使命の遂行に力められつゝあるのみならず、今次事變に際しては、多數の從軍を出し興亞聖業達成に報國盡忠の誠を捧げ又七百數十の學生諸君學理に實際に研鑽怠る事なく更に附屬病院は其の聲望日々に篤く診療を乞ふもの門前市をなすの盛況を呈しまして經營の基礎は愈々強固となつたのであります。此の偉大なる今日の業績を以て創立當時を回顧せられましたならば當校關係各位の御心境蓋し感慨無量であられる事と察するものであります。

茲に盛典に列し過去十ヶ年に於ける飛躍的發展に對し、衷心敬意並に祝意を表すると共に非常時局下朝野を擧げて國民の保健衛生體位向上を重大視せらるゝの際本校悠久の降昌を祈念してやまないものであります。

以上蕪辭を陳べて以て祝辭と致します。

昭和十四年十月十六日

久留米市長 石橋徳次郎

祝 辭

九州醫學專門學校十周年記念式を舉行せらるゝに當り其の席末に列するを得たるは不肖の最も欣幸とする所なり。曩に福岡縣醫師會深く鑑みる所あり、縣下に醫學專門學校設立の必要を痛感し昭和二年七月設立委員を設けて其の創設に着手せらる。

我久留米市亦市民の輿論翕然として起り、市勸業會醫師會と相呼應して蹶然其の誘致に猛烈なる運動を開始し、市會は市立病院一切を寄附する外向後十年間年々金七千五百圓を補助せん事を決議するあり、本市石橋徳次郎石橋正二郎兩氏は學校並に敷地一萬坪の寄附申出あり設立委員其の熱意に動かされ遂に本校を我が久留米市に設立する事に決定せられたり、是れ實に昭和三年二月にして次で同四月二十八日假校舎に於て開校式を擧げらる。

爾來學校當局並に關係各位の奮勵努力に依り、最新式鐵筋コンクリート建の堂々たる校舎續いて病院の建設成ると共に基礎は益々鞏固に内容は愈々充實し新鋭優秀なる卒業生を出す事實に一千有餘に及び前途正に洋々たるものあるに至る眞に慶賀措く能はざるなり。

翻つて惟ふに今や帝國は東亞新秩序建設の聖業に就き國家總力を擧げて之が完遂に邁進しつゝある時、人口を増殖し國民體位の向上を計るは最も喫緊先決の事なりとす、希くば職を本校に奉ずる教職員並に學生諸君自奮自勵益々斯道の研鑽に精進し以て人的資源の培養強化に資し人類福祉の増進に寄與せられん事を。

本日此の意義深き祝典に際し聊か所懐の一端を述べて祝詞とす。

三八三

昭和十四年十月十六日

久留米市會議長 吉

田

清

三八四

祝 辭

九州醫學專門學校創立茲に十星霜を迎へ記念の大慶典を舉行せらる洵に欣舞に禁へざる所なり。

回顧すれば往年文部省に於て全國に數ヶ所の醫學專門の學校を置いて青年醫師を養成し以て地方に分布し、一面病院を設立して保健衛生の完璧を期せんとするの議あるを聞くや我縣醫師會は全國に魁がけて之を縣下に設立せんとす。我久留米市は獨り筑後地方のみならず佐賀、大分等を抱擁する地區として之を誘致すべく久留米市會を中心とし商工會議所と共に一團となり勸業會なるものを組織し猛然として其の運動を起したり。當時福岡市も亦殆ど同様の組織を以て之に當りたるを以て兩々相對して激烈なる爭奪競争となりたり。當時清作は市會議員として他の同志諸君と共に晝夜斡旋し久留米市病院の年收約四萬圓ありたるものを提供するの外十ヶ年間年々七千五百圓宛を寄附するの條件を掲げて全縣下に勸說運動に勉め漸く各方面の諒解を得て有望の機運を醸成することを得たり。此間の苦辛奔走は當時之に参加せられたる諸君の知悉せらるゝ所の如し。然るに之に伴ふ地方の寄附金負擔は尙ほ多額を要するが故に其の捻出には更に一層の難澁を來し慘憺たる苦悶を重ねたりしが石橋徳次郎、石橋正二郎兩氏は當市の爲め決然として數十萬圓を寄附せられ縣醫師會も亦久留米地方の地理的の有利なるを認められ同情ある裁斷の下に決定を見るに至り最初の目的を達成するを得たり。此間に於ける兩石橋氏の精神的及物質的援助は實に至大なるものありて市民は深く之を徳とし永へに其の恩恵に浴せり。

今や本校は隆々として其の聲譽を高め全國より來りて其の門に入る學生諸氏常に所要の人員を超過し志望者の十分の一にも足らざる秀才のみを收容するに止まるの盛況を呈せり。又業を卒へて仁術に従事せらるゝ人亦頗る多數に上り九州醫專の名天下に喧傳せり。是實に伊東前校長並に現溝口校長其の他部長の各博士及醫員諸先生が其の深奥なる學理と豊富なる經驗とを以て獻身的努力を賜はりたる結果にして市民の深く感謝を捧ぐる所なり。

更に今又高等工業學校の創立あり我市は茲に專門學校二校を有し醫術方面と工業方面と兩々併立して新東亞建設に偉大なる貢獻をなし得るに至りたるは國家の爲め何の慶か之に如かんや。希くば學校當局の諸先生加餐自愛して今後益々教導授業に力を致し賜はらんことを激切懇願に禁へざる所なり。清作今日の盛典に陪し遠く往年を追懷して今日に及び感慨實に無量なるものあり。意ありて筆從はず唯一片の誠心を披瀝して以て祝賀の微衷を捧ぐるのみ。

昭和十四年十月十六日

布 江 清 作

祝 辭

篠山城の松樹を前に筑後川の清流に抱かれ小森野に仁術濟世の大殿堂が學園の自然美と相俟つて瀟洒悠揚寧ろ神々しく見ゆるのは我等の九州醫學專門學校である。

回顧すれば今より十年前私は時の政府が醫育發達のため關西の高等醫專の外に東北關東九州に各々一個の醫學專門學校創設認可の理想あるを知り、我が福岡縣醫師會有志と謀り會員總意の發露として此時代的緊要の問題たる醫專創設の議を決定し、昭和二年七月二十七日時の各郡市醫師會長を創立委員に縣醫師會長溝口君を委員長に伊東博士を顧問に推

三八五

薦し而して文部當局に設立趣意書を提出し更に醫師團は創立資金として金拾萬圓を醸出することとした。爾來本校創設が世に公になるや福岡、久留米、若松、小倉市等より誘置希望が熱烈に交渉せられ特に當市の勸業會が多大の犠牲的援助の力をよせられ又縣醫師會創立委員の輿論が遂に昭和三年二月十四日久留米市小森野に九州醫學專門學校として孤々の聲を擧げしめ、其の北は岩手東は昭和醫學等々と相前後し而して文部省は其設立認可を與へるに至り、亦同時に財團法人としての許可を得たのである。而して地元久留米市は病院土地資金などあらゆる援護を給はり、特に石橋家よりは學校舎や敷地の寄贈は勿論其他陽に陰に多大の御後援を拜授したので創設最初の一年は總豫算二十四萬八千圓が十年後の今日八十四萬七千七百九圓に膨脹し、又凡ての設備が大凡整頓して一千餘人の卒業生と在學生七百數十餘人を有して茲に嚴肅盛大なる十周年記念式を見るの喜びに接したのである。

是れ素より本校産みの親たる福岡縣醫師會と育ての父母たる久留米市併びに石橋家の御高恩と學校關係者の勤勉努力及び大衆の御同情御後援の賜たる結果である。

語に曰く勤めて整ふ、宜哉茲に於て吾人は今後一層本校創立の意義を尊重し而して天の時地の利人の和を忘れず、我等の九州醫學專門學校として百年千年の齡を重ね愈々隆盛に發展せん事を希望して本日の祝典に參賀の光榮を謝すると共に各關係方面に對して深甚の敬意を表する次第である。

昭和十四年十月十六日

福岡縣醫師會代表 會長 大里 廣次郎

副理事長石橋正二郎氏また立ちて、理事長溝口喜六氏に代りて、祝辭を述べれば、式將に酬にして瑞氣堂に滿つ。

祝 辭

閣下始めかく多數來賓の御光臨を辱ふ致しますことは私共役員始め教職員、卒業生並に生徒一同の光榮洵に之に過ぎない次第であります。厚く御禮を申し上げます。

廻つて既往を追懷致しまするに本校創立の経緯は洵に交渉複雑を極めまして即ち縣下醫師團の唱導に種子を蒔かれたのであります。其當時は丁度醫育統制の實現せられて未だ長からざる時代であり、世の識者さへも或は醫專問題を一笑にふしつた様な遺憾な事實もありました。が縣下の醫師團は國家組織の上に實地醫師の分布未だ甚だ稀少にして稍もすれば治病濟民の實務に於てさへも大なる缺陷あるを憂慮されまして社會の實情に即して何よりも早く國民の健康増進なり體育向上の見地よりして都鄙邊僻に不足なき醫事衛生の普及發達を唯一の緊急要務と切實に痛感せらるゝの餘り茲に慨然として私立醫專設立を率先して天下に提唱せられたのであります。當時膝許の福岡市では最初冷眼視せられたる憾があり、其他北九州方面一、二誘致熱は起りましたけれど位置としての選擇は最も當久留米市に望を向けられまして交渉の端を開かれたのであります。當市と致しましては豫て高等教育機關の存在は要望する處であり、忽ち市民總意の奮起となり一大決心を以て九州唯一の醫專誘致に躍動を試みたのであります。かくなれば福岡市も亦大都市の面目上又潑刺な運動を誘起しまして其の擧句遂に逐鹿の一矢は酬いられて當市に齎されたのであります。天の時と申しませうか、地の利、又所謂人の和も三要素爰に備はりまして愈々決定の喜びを視たのであります。

而して殊に市に於かれては絶大なる市病院全部の提供と又十ヶ年に亙る多大なる補助金及市病院跡地賣却（巨萬の代金）を助成金として贈られ又石橋家にては育英事業國家的貢獻の御見地からなる御同情により校舎校地の寄附や病院新

築資金の御融通迄も莫大の御援助を頂きましたので、茲に初めて本校創立の基礎工作の三大礎石が泰山の搖ぎなき千古の校基を確立したのであります。

而して本校歴史の根源をこゝにおろしましてより早くも十年意義深き此祝典に至りましたが成育の枝葉此繁盛を見まする事は洵に感慨無量であります。過ぐる八年前即ち昭和七年四月舉行致しました三大祝典——開校——開院——及第一回卒業式の盛観は未だ昨日の様な記憶の感が致しますが、當時多數諸賢の祝辭又激勵や御期待の御言葉頂きました數々の御芳情につきましては深く銘記遵守致しまして今日迄自戒努力維持經營の方策を究め緊切輕重を考察致しまして誕生當時の三大天恵に答ふるに最善を盡し逆櫓の悔なからむ様常に堅實なる實行豫算につとめまして、日進の教育又實地指導臨床教育に於て御期待に副ふ實施に努力致して來たのであります。殊に教職員各位にも格別の御精勵を給はり全能を盡し下さいまして又生徒諸君も自肅勉勵致されて知、徳、體、三育の調和宜しきを得今や國家有爲の臨床醫家の輩出も美事な成績となつて年々社會に送り込まれ本校の名聲も皆様御聞及の如く今日では醫專中の白眉として呼稱さるるに至つたのであります。茲に十年間の歩をつくくくと考察致しますれば只今校長の御話の如く洵に易々樂々の業ではありませず行路の打開力行努力の透徹せる力こそ眞に偉大を感じたのであります。之も多面犠牲的御後援の有形無形の尊き御協助により本日此の輝かしき光榮あるのであります。謹みて深厚なる衷心の感激を申上ぐる次第であります。つきまして十年一と昔の初期育成時代は既に第二期の發展期に在りますので向後に於ける執るべき急務は多々あるのであります。本校久遠の歴史よりすれば未だ幼稚な一步に過ぎませんのみならず、此記念は又百年の大計を立つるの記念日とする次第であります。爰に前途尙一段の躍進を覺悟致しておりますからどうか四方各位の倍舊の御援助御鞭撻を庶幾ふ次第であります。又教職員諸氏に於かれましても尙一層の御盡瘁を希望してやまないであります。殊に畏多

き事ながら御聖慮の深き教育の眞髓は「一に師表の徳化に訣つ」と教へ給ひし御軫念を體せられまして先づ第一に人格の陶冶に自ら範をお示し下さつて十二分の御垂教を希ふ次第であります。

秋は正に大東亞建設の御聖業に直面致しまして本校も在學生、卒業生其他關係者多數の應召員もありまして共に報國の至誠に碎勵せらるゝ諸君に對しまして爰に歡喜を共にするに由ないのは洵に残念であります。其の減私御奉公の實況を偲ばれまして生徒諸君も國家重大の時局柄特に自重自戒し苟も奔放浮華の行爲どもなき様切に慎しまれて益々協心愛校の一念に終始致され只管校風の精華を發揮せられん事を聊か婆心ながら此機會に一言を呈して此式典を祝し同慶感激を述べて御挨拶と致す次第であります。

昭和十四年十月十六日

九州醫學專門學校理事長 溝 口 喜 六

次いで田中教授職員を代表して祝辭を述べ。

祝 詞

我々曩に十周年記念日を迎へたるも時局に鑑み進んで式典を延期せられたるは我等一同至極の措置と信ぜし所なりき。然るに事變は暴戾蔣政権によりて日々放埒の惡態を呈するに至り國歩一轉又再轉天意に従つて興亞の大聖業も愈々長期を要する事と成れり。今や我々記念日を去る既に一年有半學校當局即ち意を決し、秋天高き好日を卜して記念祭を舉行し、嚴肅簡素一は以て時世に順應し一は以て校典を尊重せらるゝ、誠に時宜に適したる者と云ふべし。夫れ學校を創立

して之を經營し其完璧を期するは難事至難の事に屬す、殊に専門學校府特に醫學の薰育に關しては其隨一とすべき也。翻つて我校の歴史を顧みれば、一路坦々順風滿帆の觀を呈し日に日に、月に月に、而して年と共に愈々完美の域に進み悠揚として迫る所なきは誠に一異彩とするに足る。然れども今日を以て往事を推測するは大なる誤謬に外ならず、即ち當時の状況は寸時の苟安を許さず荊棘の道前に横はり瘴癘の水後に湛へ屢々左顧右眈漸く窮通を得たるの困難に遭遇せし、決して一再にあらざりしも拮据黽勉忍苦能く之に堪へ破綻を未然に防ぎて遂に之を克服したる者なり。之れ畢竟天の時人の和而して地の利を併せ得たるに有ると雖も抑亦た人的素質の偉大なる者ありしに因るや明らか也。即理事團の度量教授團の精勵職員雇員の恪勤特に歴代校長の適切なる統率は秩序整然として一糸亂れず各員相携へて日夕嬉々私を忘れて職務を遂行し得たるにあり。加ふるに地元並に石橋家の後援實に甚大なるは又牢記すべき事也。

斯くて我校は茲に光輝ある創立期を経過し、今や第二期整備期に入らんとし世稱して本邦醫學専門學校中の隨一と爲すに至れり。嗚呼大なる哉九州醫專、然れども我等今日此盛儀に際會して欣快に堪へず、謹んで慶祝の辭を絶叫するは常に校運隆昌を喜ぶ所以のみにあらず、實は更に大に今後の伸展に藉り愈々本校使命の完遂に邁進し學に術に益々精緻の發揮に勉め醫道の大本に則り學校創立の大精神を昂揚して良醫を中外に送らんと欲すれば也。聊か所感を述べて祝詞とす。

昭和十四年十月十六日

九州醫學専門學校職員總代 丑 中 田 彦

その後をうけて卒業生總代近藤壽郎氏祭壇に進み、今回本校創立十周年祝典に當り末席を汚す光榮を得たるは感謝の至

りに存じますと述べ來り、その十ヶ年の間に學校病院の驚愕禁じ得ない程の發展は偏へに在任先生方及び生徒諸氏の汗の賜と感謝の詞を述べる。

祝 辭

今回本校創立十周年祝典に當り末席を汚す光榮を得たるは感謝の至りに存じます。

又不肖私が卒業生を代表し祝辭を呈するを得たるは光榮至極に存じます、十ヶ年の歲月は今にして思へば烏兔忽々夢の如く幻の如くでありますが其の間學校及び病院の發展は驚愕禁じ得ざるもの有り第一回生として入學當初節原小學校の假校舍に於て勉學に努めし頃と現在の堂々たる學校更に京町時代の附屬病院と今の病院を見れば内容の充實設備の完成等學校當局の努力見る可きものあり卒業生一同の感謝する處であります。更に第一回生の盛大なる卒業式に當り貴賓の結構なる祝辭を賜り天の時地の利人の和三者合し得たる本校の將來の發展を卜されたるが期せずして今日見るが如き盛大なる威容となりたり。更に廻り來る二十年三十年の祝典を思へば胸内欣喜禁じ能はざるものあり。

本校卒業生も既に千名を越へ各々の道に精勵努力せるが未だ實力不足にして學校當局の事業に何等の贊助も致し得ざる状態に有るも將來は期して見る可きもの有るを信するものである。

更に繰返し學校長始め各恩師の御力により、今日の盛大なる發展を來せるを厚く厚く感謝を捧げるものなり、簡單乍ら一言卒業生を代表し祝辭を呈します。

昭和十四年十月十六日

九州醫學専門學校卒業生代表 近 藤 壽 郎

最後に四學年級長豊田利生氏生徒一同に代りて祝辭を讀む。

祝 辭

興亞の大業日に月に進捗するの秋此處に亦た吾が九州醫學專門學校創立十周年記念の式典舉行せらる。御來臨の貴位貴官並に學校教職員先輩諸兄の皆様と共に席を同じくし吾等生徒七百餘名此の盛大なる式典に列し得るの光榮唯に感激あるのみ。

閱するに星霜十餘年迎へては歲月長く送りては日月短し、此の間幾多嘗膽を苦味せられし創業者温蓄深き諸先生のよき教導先輩諸兄の精勵將た斯道諸大家の御鞭撻は今日吾等生徒が何等不便もなく此處に一意研學に邁進するを得、九州醫學專門學校の名聲斯界に冠たるの礎とはなれり。

甚大なる此の恩恵此の知遇に吾等生徒は頭を深く垂れ只管感謝の念に一入なるものあり。

隣つて觀るに學校病院共に諸般の設備は逐次年を追うて擴大完備せんとし校風今將に確立せんとす欣喜にたへず。卒業生の垂せんとする一千名而して醫界に飛躍し世に期待せらるゝもの大なり實に歡喜おかざるところ。

國はあげて興亞の大業に専心たり醫業亦此所に一役を賦せんとし吾等若き醫學徒亦燦たる母校の名譽を負うて國家の將來を繼承せんとす。

惟此の秋母校の創業十周年は成る喜ばしくも勇ましき隼なり。

此處に來り學ぶ學徒の幸福や幾何ぞ。

吾等は希ふ九州醫學專門學校の榮光久遠にあらんことを。

今日のよき日に萬々歳を唱和し母校の聲譽の月日と共にいや榮え増さんことを自ら期せんとす。

昭和十四年十月十六日

九州醫學專門學校生徒代表 豊 田 利 生

時は過ぎ、式典の次第は移つて西原教官により祝電披露される。内外知名の方々等しく我が校十周年記念式を祝つて、交々その祝電を寄せられたがその御芳名左の如し。

京城醫學專門學校長殿

板垣政參殿「十周年記念に當り將來の御發展を祈る」

佐世保鎮守府司令長官殿

湯 徳次男殿

杉 森 司殿

金杉英五郎殿

鶴 惣 一殿

九州日々新聞社々長フクミキヨシ殿

中村平三郎殿

久留米市長石橋徳二郎殿

「十周年の式典に當りその席に列すること出來ざるは遺憾なれども滿洲より御盛典を祝す。石橋」

庄司九大醫院長殿
金子廉太郎殿
石澤政男殿
九大 藤原教悅郎殿
大阪府衛生課長 高木乙熊殿
福岡日々新聞社殿
第五高等學校長十時彌殿
第七高等學校造士館長岡田恒輔殿
福岡高等學校長堀重里殿
大分高等商業學校長石丸優藏殿
熊本藥學專門學校長村山義溫殿
鹿兒島高等農林學校長殿
宮崎高等農林學校長殿
鹿兒島高等商業學校長殿
昭和醫學專門學校殿
大阪高等醫專校長殿
鹿兒島縣醫師會長殿

大分縣醫師會長野口源三郎殿
宮崎縣醫師會長殿
福岡縣衛生課長内野總一殿
宮川武殿
綠川太一殿
黑瀬祐吉殿
小林清太殿
瀬口公太郎殿
小倉市上田殿
九大重松俊殿
大久保國雄殿
小野殿

祝電披露を終れば、愈々勤績者表彰式に移り、溝口校長式辭を述べて勤績者一同の勞を稱ふ。

式辭

茲に本校十周年記念の祝典に際し多數來賓の貴臨を仰ぎ勤績者表彰式を舉行するは本職の深く欣幸とする所なり。回顧すれば本校播籃の地を紫水の畔に相し、爾來十星霜營々建設の勞空しからず舊態茲に一新し堂々學園の聳立を視

る洵に同慶歡喜に堪へざる所なり。

惟ふに育英の業は固より一朝の事にあらず就中醫育の完璧を期するは難事中の難事たるに鑑み吾人は夙夜使命の達成に献身の努力を傾注しきたれり。

幸哉本校は環境天恵の深きあり。行路幾多の難關に遭遇せりと雖も協心戮力克く荆棘を啓き根柢に培ひ細心經營に任り以て今日の校基を確立し滿帆順風を孕むの機運に到達せるの感あるは之れ實に四方看顧の多大なる後援によると雖も亦諸士が終始一日の如く忠誠多年其職に奉じ精勵努力の賜たらざるはなし、茲に十周年の校慶を記念し謹みて衷心の謝意を表し其勤勞を彰する所以なり。

時將に興亞大建設の鴻業に際會す、國家總力の強大は實に醫育機關の擴充に俟つ所急且大なり、吾人益努力全能を傾けて國家の負荷に答ふるは刻下喫緊の要務なりと信ず。諸士希くは此光榮を銘し範を垂れて益其職に精進し以て本校使命の向上完遂に盡瘁せられむことを。一言以て式辭とす。

昭和十四年十月十六日

九州醫學專門學校長 溝 口 喜 六

この光榮の被表彰者は溝口校長以下五十二名、何れも七年以上勤續のものにして我が九州醫專をして今日あらしめられた人々ばかりである。吾々は謹んで五十二名の方々の功勞に對し衷心より感謝の涙を捧げた。その一部を左に轉載すれば

理事長 溝 口 喜 六 十年二月
教授、院長 田 中 政 彦 十年一月

教 授	向 井 治 雄	十年一月
同 同	井 上 東	十年一月
同 同	横 山 通 幹	十年一月
講 師	進 藤 篤 一	十年一月
助 教	鈴 木 芳 雄	九年十月
教 授	布 施 四 郎	九年九月
講 師	板 垣 政 參	九年六月
教 授	磯 部 幸 一	九年一月
同 同	王 丸 勇	八年六月
講 師	田 原 淳	八年一月
同 同	渡 邊 好 正	八年
教 授	廣 瀬 金 之 助	七年四月
講 師	鹿 子 生 陸 男	七年一月

かくて式も愈々終局に近づきし頃ほひ、本校生みの親たる福岡縣醫師會による創立記念碑贈呈式あり、大里廣次郎氏より校長へ贈呈の辭を述べ目錄を手交す。

贈呈の辭

我が福岡縣醫師會は會員の總意に依て醫學專門學校創設の議成り昭和二年七月三日福岡市に創立事務所の開始を協定し、同月二十七日其の第一回會合を催す。而て各郡市醫師會長を創立委員に縣醫師會長を委員長に擧げ資金拾萬圓を繰出して昭和三年二月十四日地を久留米市小森野に定め九州醫學專門學校として創立認可を得たり。爾來拾星霜其の間學校關係者の努力と多方面の援助に依り幾多の幸運に恵まれ茲に開校十年記念式を舉行せらるゝに至り、此の秋に當り往時を追想し將來を考慮して九州醫學專門學校創立記念碑を校庭に建設す碑の裏面に開校滿十年に當り創立の意義を永久に護れざる爲茲に碑を建つるの文を刻し以て其の意義を明かにす先に碑完成したる故、今日嚴肅に是れが贈呈式を舉行せらるゝに臨み聊か贈呈の辭を述べ我等の九州醫學專門學校に敬意を表す。

昭和十四年十月十六日

福岡縣醫師會長 大里 廣次郎

終りて校歌合唱

近代の醫學起れり 我等承けたり……………

次いで記念祭歌

水清き里小森野に 聳えて高き三層樓……………

式場もわれよとばかり、若き日の慶びを聲に託して、喚き歌ふ七百の健兒に交つて、白髪も著しい教授のほゝに涙が數行下つてゆく、心なしかぬれてゆく衣の袖もそぼふる秋雨のせみのみではあるまい。歌聲はまたも續く。かくして榮ある

十周年記念式典の幕は閉ぢられてゆく。本日式典の次第を略記すれば

- 一、開式ノ辭
- 一、國歌合唱
- 一、護國ノ英靈ニ對シ默禱
- 一、教育勅語奉讀
- 一、校長式辭
- 一、來賓祝辭
- 一、理事長祝辭
- 一、職員總代祝辭
- 一、卒業生總代祝辭
- 一、生徒總代祝辭
- 一、祝電披露
- 一、勤續者表彰
- 一、創立記念碑贈呈（福岡縣醫師會）
- 一、校歌合唱
- 一、記念祭歌合唱
- 一、閉式ノ辭

式終了後生徒に對して記念品として、湯呑茶碗一個(記念文字入)、學校病院運動場記念碑寫眞及び繪葉書配布さる。

來賓祝宴會場

秋雨蕭條、今日の佳日はこの秋雨に毫も割引はせられない。聴け晴れの來賓祝賀場としての講堂から流るゝ美しきこの律調! それは我九醫の隆盛を壽ぐ律調でなくて何であらう。記者はこの宴會場に一步の足を入れた瞬間、感激に酔つたと云ふのが眼頭が茫と霞んでしまつた。これではならぬと確と眼を据えて宴會場の情景を観る。先づ正面には儼乎たる大日章旗、天井には五色のテープ、歡喜と感激に滿てる來賓の群からは間斷なき爆笑の連發。軍裝、燕尾服、モーニングの胸には燦たる今日の來賓章。中に交つて校長、院長は殊に嬉し相に笑一杯。白布に被へる食卓は四列、四十人が各列に廿人宛に並んでゐる。卓上には日滿國旗、酒盃肴等御馳走こそ少けれその心は山海の珍味、更に錦上の一花ダリーヤの風致には轉々科學者以外に何等かの床しさを覺えしむる。

その間にあつて宛も花に飛び交ふ胡蝶の如く、來賓群にサービスする看護婦諸嬢。彼女達も今日許りは毫も職業意識の影が無い。只喜びに還つた普通の女らしく楚々として可憐、薄化粧の口唇も心憎い。この會場の接待主任井上教授何時も赤子と異つて、今日は綺麗めく紳士連の應接、そのデアグノーゼや如何、只感激の鼓動とは僻目か。レコードは鳴る天井に流れる五色テープも心なしかこの旋律に和する様にゆらり〜。

やがて少時經過、萬雷の拍手に迎へられて校長の挨拶、次いで院長の挨拶、拍手に始まり拍手に終るこの情景を我等は何と見る。それは世がこの國手慈育としての九醫に送る拍手でなくて何であらう。

噫! 後は開けゆく乾杯の情景。

職員、同窓生祝宴會場

拍手の嵐、爆笑の波、怒號の叫び、失禮だが恰もそれ犬小屋かさなくんば精神病棟に一步足を踏み入れた感じのこころ職員同窓生宴會場。今こゝに教授のいかめしさはなく、博士の肩がきはない。教授、卒業生といふ間隔は全くとり去られて残されたのはたゞそれ親友と云はんか、今こゝに紙一枚の距てすらない。

滿堂溢るゝ笑の中に井上教授の開會の挨拶もしどころもどろ。校長先生、院長さん共、同様に顔一杯の笑を浮べて歡びの日に際する所懐を語る。やがて各教授交々登壇。

先づ王丸教授の浪花節。廣澤寅造ばりのよい聲で? 次いで布施教授得意の舞踊お月さん。廣瀬教授の詩吟「花は咲いても……」垣山教授はいとも雄壯なるデカンショ、高等學校時代でも思ひ出したんでせう。井上教授はおけさ、こゝに木村教授の軍隊式餘興。

「氣をつけ、杯もて、酒をつけ、のめ、終り」となんと簡單なもの。

紅唇の看護婦嬢、ひげの小使老おどり狂ひ、喚き歌ひて宴將に酣なり。果しなき慶びの宴の筈は何時まで待つても盡きさうにもない。その間を縫ふて飛蝶の如き活躍めざましきは磯部係長初め藤倉山名兩君の映畫撮影隊だ。

十周年記念物故者慰靈祭

創立十周年記念祭三日目（十月十八日）の十周年記念物故者慰靈祭は市内梅林寺に於いて盛大に開催された。

この日雲多く肌寒き中秋の風は稍々強かつたけれども、記念式當日の如き雨天でなかつたことは誠に幸ひであつた。

定刻午後一時頃までには、さしもの廣き本堂も立錫の餘地なき程で参集された多數の來賓名士の中に、石橋正二郎氏、大里廣次郎氏、志岐中將閣下、第十二師團長代理鈴木少將閣下、光武大佐殿等の顔も見られた。焚く香の薫り堂に満ち、境内の静寂を破つて響き渡る太鼓の音、時正に一時、導師の着座と共に慰靈の祭典は擧げられた。

三十名近き黒衣の讀經宛ら冥界の靈を誘ふが如く、涙新たる遺族の姿には感慨一入深きものがあつた。尙高く低く續く讀經の中に導師二回餓鬼の水祭りを行へば全僧それに倣ひ、導師再び起つて中央の祭壇に焼香すれば又一しきり高く讀經の聲、導師再度の焼香を終りて校長祭主として焼香し續いて遺族、來賓（鈴木少將）、役員、職員（田中院長）、生徒各代表焼香を濟ませば、満場姿勢を正して其の場で回向を行ひ祭文の朗讀に移る。祭主溝口校長靈前に祭文を捧げ、次いで財團役員總代大里廣次郎氏、職員總代田中病院長、生徒總代井上安郎君の順に弔慰の言葉を心から朗讀し終り、それに應へて遺族代表は我校の隆盛を讃へ、地下の故人も満足の至りでありませうと挨拶を述べた。

祭典も漸く終りに近づき、導師の退場と共に、有志の焼香始まり、遺族席、來賓席よりの焼香者引きもきらず、職員席より各教授助教助手、生徒席からも多數の焼香者續々と、故人の靈前には香の煙が縷々と立昇り各出口より静かに出る

退場者の顔にも傷心の陰が浮んでゐた。

終了の時刻は三時過ぎで、この日の故人の氏名及び逝去年月日は次の如くである。

氏名

逝去年月日

財團役員

小野重喜	昭和四年一月三日
山口重太郎	昭和四年一月十七日
山田眞重	昭和四年五月四日
田代基太郎	昭和五年二月十五日
神代基太郎	昭和五年四月二十一日
鹿野司馬	昭和六年一月十七日
河野山馬	昭和六年十二月十七日
西川喜次郎	昭和八年九月二日
中川喜次郎	昭和九年三月三十一日
辛島佐次郎	昭和九年五月二日
船越岡次郎	昭和九年十二月六日
加藤治亮	昭和十年七月十九日
伊藤藤亮	昭和十一年四月十六日
早川純五郎	昭和十二年五月三日
讚井源次	昭和十三年一月二十五日
福田源正	昭和十三年二月十五日
古賀善三	昭和十三年六月十九日
秋武善雄	昭和十三年八月十二日

卒業生 書記員
 醫學教授 醫學教授 醫學助長 醫學助長 醫學助長 醫學助長
 助教 助教 助教 助教 助教 助教
 同教 同教 同教 同教 同教 同教
 教員 教員 教員 教員 教員 教員
 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員

上田智	具田智	稻田本	金口隆二	立石富	大島澄	藤田辰	川口孫	光田安	吉東文	伊東湊	一ノ瀬龍	溝口宮	二宮正	青木治	吉田輝	八重津	山脇進	有松直
義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽	義爽
昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日	昭和一十一年八月八日

生戰		戰戰戰																		
徒死		病死死死																		
森三太郎	井野貫一	山田賢	八井秋	田並謙	大城千	永田萬	長坂雅	猿渡繁	雨森重	筑案勘	濱田勘	廣田勘	本村鐵	神川義	戸原義	玉利一	井上良	田中	村山秀	安永憲
昭和一十一年六月十日	昭和一十一年五月十八日	昭和一十一年五月十八日	昭和一十一年四月二十九日	昭和一十一年四月二十九日	昭和一十一年二月廿三日	昭和一十三年八月十六日	昭和一十三年八月十五日	昭和一十三年八月十四日	昭和一十三年八月十四日	昭和一十三年一月二十八日	昭和一十三年一月二十八日	昭和一十三年一月二十八日	昭和一十三年一月二十八日	昭和一十二年三月九日	昭和一十二年三月九日	昭和一十二年一月十八日	昭和一十二年一月十八日	昭和一十二年一月十八日	昭和一十二年一月十八日	昭和一十二年一月十八日

森	西	黒	黄	太	堀	大	高	中	吉	山	井	千	原	野	二	田	日	橋	平	荒	石	渡
田	澤	田	朝	梅	江	竹	村	島	本	崎	上	綿	口	宮	笠	中	笠	谷	塚	木	田	邊
光	節	雨	敬	之	元	和	才	正	隆	養	富	文	忠	義	克							
則	巽	彌	鈞	雄	人	助	律	水	俊	介	則	匡	夫	浩	琳	清	男	德	夫	志	久	己
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

梶	山	淺	馬	原	黒	玉	佐	張	藤	中	森	田	池	中	松	宗
原	崎	川	場	田	瀬	眞	藤	瀬	島	本	原	尻	山	藤		
		清	忠	禎	太	直	必	秀	利	正	一	武	忠	今		
直	孝	治	壽	己	博	郎	人	楷	敏	恭	禮	正	男	彦	之	男
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

祭文

謹みて物故財團役員教職員三十四柱並に卒業生及生徒六十七柱の靈前に申す。
 茲に開校十周年記念祝典を舉行するに當り諸靈在世の遺績を偲び思慕追懷の情轉た禁する能はず今や幽明處を異にし

て此慶を俱にする能はざるを恨む遺憾何ぞたへん。

回顧するに本校沿革の盛事は世の經營困難とする私立醫專教育界に於て稀に觀る一大事業なり。茲に一昔の紀元を劃して儼乎たる校運を樹立し既に卒業生を出す事八回千有餘名の多きに達し聲譽燦として中外に昂揚す。

聊か以て諸士の英靈を慰むるにたらんか。而して創立時に於ける物故發起人諸士の功績を始とし諸子嘗て職を本校に奉じ恪勤精勵克く其職務に貢獻せられたる遺績の多大なるを偲び追慕敬仰の念愈々切なり洵に感激感謝の至に堪へず。

又物故卒業生二十六柱及生徒四十一柱の諸靈よ諸子は多年螢雪の蒞蓄を傾けて濟衆救治の天職に碎勵し又今次事變召に應じて勇躍征途に上り奉公の至誠を捧げて赫々の武勳をたて遂に名譽の戰傷病死に斃る靖國神社頭忠烈萬古に朽ちず、又業未だ央にして不幸病魔に斃る嗚呼國家有爲の材を亡ぶ痛惜惻怛極まりなし慰藉何ぞ言辭に盡さんや。

茲に恭しく諸靈を迎へて此祝典を奉告し報本反始の誠を捧げ、以て益々奮勵自戒本校使命の完遂に貢獻せんことを誓ふ。

希くは在天の靈來り饗けよ。

昭和十四年十月十八日

九州醫學專門學校長 溝 口 喜 六

祭 文

我が校茲に創立十周年記念祭を舉行し其行事の一として關係物故各位壹百壹名の英靈に對し敬恭再拜謹んで哀悼追憶以て温故の半日を過さんとす。

惟ふに財團役員二十靈教職員十四靈の各位は時期に遲速職に大小の別はあれども我等が豫て事を伴にし或は學校病院の經營に訓育教化の向上に相倚り相測りて唇齒輔車全く異體同心互に手と爲り足となりて和衷協同の實を擧げたる忘れんと欲して忘れ能はざる者不幸先づ我等の儔を去つて忽焉遠逝せられたるなり、然るに觀よ今日我校の威容は一日は一日より善美に一年は一年より優秀に職員唯々として務め學生嬉々として學び曩日敢て得能はざりし者今日立所に之を辨じ今昔の感眞に深き者あり之畢竟各位の協力執掌に由りて舉措進退常に緊背に當りたるの結果に外ならず。而して各位無くして果たして此所に到りしや否や衷心忸怩を感ぜずんばあらず。而も今日各位と共に之を慶祝せんと欲するも乃ち空し。各位は我等と苦しみたり、而して共に樂しむ事能はざるか。特に故伊東校長、伊藤常務理事、船越理事、中川監事、溝口、八重津、吉田の諸教授今果して何所ぞや噫悲しい哉我等が誠心、誠意各位を追慕し哀悼する所にも亦た之に外ならず、一將功成りて萬骨枯るとは戦場の習なるべきも我等亦た實に此感深甚なる者あり、然るも各位が事に當り業に努めしは只々廣大なる人間道に立脚して敢て細鎖の喜悅を想ひしにあらざる事は我等の熟知する所我等は即各位の精神を體し必ずや今後の舉措を誤らず、更に一層の努力と精進を試み各位歿前の期待に副はん事を期せんのみ願くば魂魄我等の前途を照鑑して我校有終の美を擧げしめられん事を希望の至りに堪へざる也。

卒業生並學生諸子六十七靈に對しては我等の哀悼又強き者あり諸子は曩きに笈を負ふて我校に入り或は業を終り、或は未だ之を畢らざるに不幸二豎の犯す所となり捲土重來を期し、攝生療養到らざるなく闘病征痾之れ勉めしと雖も遂に靜かに天命に従ひ高遠の理想と有爲の逸材を抱きて白玉樓中の人となれり、夫れ人に命數あり、人爲無力と言へどもしかも志を立て郷關を出て業未だ完からざるに不幸中道に斃れ、燃ゆるが如き抱負も沸ぎるが如き熱血も悉く一朝一擲萬事休せり、敦盛の死は熊谷を頓悟せしめしも彼の死は決して敦盛への同情に値ひせず、噫諸子の天折只夫れ涙のみ悲しい

哉諸子願くば我等の衷情を汲み安住の所を得よ、而して特に我等の心を打つ者に戦死戦病死の四子を數ふ諸子は皇軍の一員として國難に赴き、直接興亞の大聖業に参加し嚴寒酷暑を恐れず勇往邁進能く己の天職を奉じ皇軍の保健治病に勉めしも不幸自ら犠牲となりて靖國神社頭の人となれり。然れども諸子は既に至高至尊の義務を果して爲すべきを爲し行ふべきを行ひたり老若何ぞ顧みるに足らんや。

想ふて此所に到れば哀愁自ら新にして思索迷低途に亂れて纏れんとすされど周圍の状況は寸分の弛緩を許さず、而して我微なりと雖も醫育の邁進に當面す我等奮勵更に一番驚馬に鞭ちて此使命に直往せんのみ之れ恐らくは亦各位諸子の英靈を慰むる道也と信す。

聊か蕪辭を述べて祭詞とす。

謹言

昭和十四年十月十八日

九州醫學專門學校職員總代 田 中 政 彦

祭 文

秋冷の氣山野に充ちて此所に我が九州醫學專門學校十周年の記念祭は嚴かに訪れたり。

今日學園の盛大を見過去十年の歴史を偲ぶ時短かゝらざる此の間に今日の此の盛儀を待たずして他界せられたる幾多の英魂を想ひて感慨轉た無量なり。

學校創設に或は爾後の經營に幾多燦然たる功業を残しつゝ物故せられたる財團役員教職員三十四氏洋々たる未來を望みつゝ不幸中途に仆れたる先輩二十六氏可惜花咲かで蕾に散りたる在學生徒四十一名今にして思ふ共に共に此の日の此

の歡び此の感激を分ち得ざるの痛恨を然れども安んじ給へ地下百有餘の英魂よ。

吾等幸に此の校に學ぶ生徒七百五十協力一致以て英魂の御護の下に卿等の崇高なる御理想に副ひ奉らん事を誓ふ。

創立十周年記念學校關係物故者慰靈祭に當り在學生徒七百五十衷心頭を垂れて合掌す。

願はくば英魂來り享けよ。

昭和十四年十月十八日

九州醫學專門學校生徒代表 井 上 安 郎

襲來無常嵐	無老幼男女
生者必滅處	風波六合暗
爐上一片雪	嗚呼悲南無
故兄輩知友	今日慰靈席
尊靈彷彿來	會員千八百
代合掌默禱	十年今昔夢
奉捧敬弔辭	嗚呼悲南無

昭和十四年十月十八日

福岡縣醫師會代表 大 里 廣 次 郎

十周年記念體育大會

四二二

十周年記念祭第二日目(十七日)に舉行される豫定であつた體育大會も、前日來の雨に延期に決定した。

慰靈祭の後をうけた二十二日の體育會當日、ぐんと高い秋空の下でマイクの音も朗らかに本大會は開かれた。八時四十分爽やかな風に井上總務開會の辭を述べれば、溝口校長、田中院長相續いて開會の挨拶あり、國旗掲揚、篠山城頭に翻翻たる大日章旗と校旗を仰ぎ見ての君ヶ代、次いで東方遙拜、黙禱と順を追ふて進み、アコーデオンの音も美はしく校歌を合唱、茲に開會式は終へたが、更に横山教授立ち勤勞報國隊に文部省より渡つた賞狀の授與式が行はれた。滿洲班代表岩橋保種君(四年生)、北支班代表古賀三太郎君(四年生)各々スタンドに現はれ榮ある賞狀を受取つた。この日に於ける賞狀授與式は非常に意義深いものがある。斯くて日本晴の秋空の下に若人の興奮を乗せて大會は最高頂に迄進んでゆく。九時七分秋晴れの青空に舒するピストルの響きに百米競技のスタートは切られた。次いで「フットボール投」、「二人三脚」、「千五百米」と順を追ふ内、十時十五分、本日の賓客白衣の勇士は入場された。戦線の地に赫々たる戦功をたて、不幸敵弾に傷つかれし身の勇士に、我々は如何にして今日一日の感謝を捧げようか。或ひは杖にもたれ、或ひは手に繻帯をさされての御入場は過去の武勳を物語るに充分なものだ。當日御出席の勇士は内科百十一名、外科七十六名、外に附添外科五名内科十三名、更に軍醫殿四名である。

各學年對抗「百足競走」の間もなく「マラソン」の出發ありプログラムは進む。大會の微笑ましい點景として、久留米

日善兩幼稚園の出場はなごやかな空氣に大會場をつんでしまふに充分だつた。此の外主なるものに「傷病兵鯛釣り」「學校對病院四百米競走」「教授職員平均競走」「借用競走」「蹴球親子競走」「綱ひき」等々がある。

秋の陽もうすれんとする頃勇士御退場あり、校長より代表の方にお禮の辭を述べ、全場の萬歳裡に御送りする。

色とりどりの觀衆に埋められて近年に無い盛況を見せた本校體育大會も遂に豫定のプログラムを了えて此處に自出度く閉會となつた。

日影うすれ行く篠山城下、まださめやらぬ興奮の中にも閉會の式は肅然と行はれ、城頭高き國旗も靜かに降下された。

賞品授與には勝つた學年も、負けた學年も共に拍手を送りあふのであつた。

一等舊一年(二七八點)二等三年、三等二年、四等四年、五等新一年。

右が團體總成績である。

斯くて十周年記念最後の行事も此處に全く終りを告げた。

編輯後記

昭和十二年七月十日十周年記念準備委員を左の諸氏に委嘱された。

- 溝口理事長 石橋副理事長 三池常務理事
- 田中病院長 北島事務長 草葉幹事
- 木村教授 横山教授 磯部教授
- 向井教授 布施教授 井上教授
- 古森教授

同年七月十四日第一回準備委員開催、協議行事日程

第一日 四月二十七日(水) 午後三時

慰靈祭(物故教職員役員) 於梅林寺

第二日 四月二十八日(木) 午前十時

記念式典 表彰式 祝宴 講演會

第三日 四月二十九日(金)

天長節 校内公開 展覽會

同年十月八日 第二回準備委員開催 協議事項

一、時局を考慮するも理事會でも決定せること故豫定通り決行する(校長)

的に決定し、左の如く式典の係員囑託さる。

總務部 部長 三池重作 主任 北島種彦 係員六名

式場係 係長 木村律郎 主任 古森長尾兩教授 係員八名

祝宴係 係長 井上東 主任 松藤、生田兩教授

係員十二名看護婦二十名

接待係 係長 向井治雄 主任 上田、江村兩教授

係員十名看護婦二十名

體育大會係 係長 横山通幹 主任 市川、垣山兩教授係員四名

慰靈祭係 係長 布施四郎 主任 王丸勇 係員十六名

記念誌及記録係 係長 磯部幸一 主任 廣瀬、登倉兩教授

係員三名、編輯部員及寫眞部員二十名

かくて着々準備は進み夫々係の人々は多忙を極めた。

やがて待望の記念日は来た、第二日が雨の爲め體育大會が行は

れず二十二日(日曜)に延期されただけで、何もかも時局下の記念

式にふさはしい嚴肅と和氣藪々裡に終局をつげたが、記録係だけ

は仕事が終わらない。「九醫新報」記念號の編輯に大童とならざるを

得ないからだ。時恰も防空演習の眞最中であり、印刷所の燈火管

制の爲め仕事は思ふままに捗どらず、それに發行日は迫つてゐる

全く晝夜兼行、係の人々はへと／＼に疲れた。併し黙々としてこ

れを完遂して廿四日之を全校生徒に配布するを得た時の悦びは知

二、記念式典の總括的豫算見算計畫發表(事務長)

爾來銳意準備にかかる、即ち記念誌に關して云へば翌日より早速、各方面に原稿の依頼狀を出した。十月二十九日(金)早くも第三回卒業生筑紫重臣君より原稿到着これをトップにどん／＼原稿は集まる。

昭和十三年一月十三日 教授會の席上にて校長より十周年記念式典延期との發表あり、理由は時局の重大性にかんがみて遠慮するとの事である。

同年四月二十二日より二十七日に亘りて、十周年記念式典延期の通報を各方面に發送して諒解を求む。それより約一ヶ年ばかりぼつり原稿到着、記念式も果して實現さるるものかどうか、危ぶまれて心細し。

昭和十四年七月一日(土) 第三回準備委員開催 協議

一、既定の計畫を縮小して卒業式程度にて實行

一、展覽會、講演會を取り止め、記念誌を發刊する

一、十月十六日(月)十周年記念式典 勤續者表彰式、

午前十時 於武徳殿

一、十月十七日(火、祭日) 體育大會 雨天日曜順延

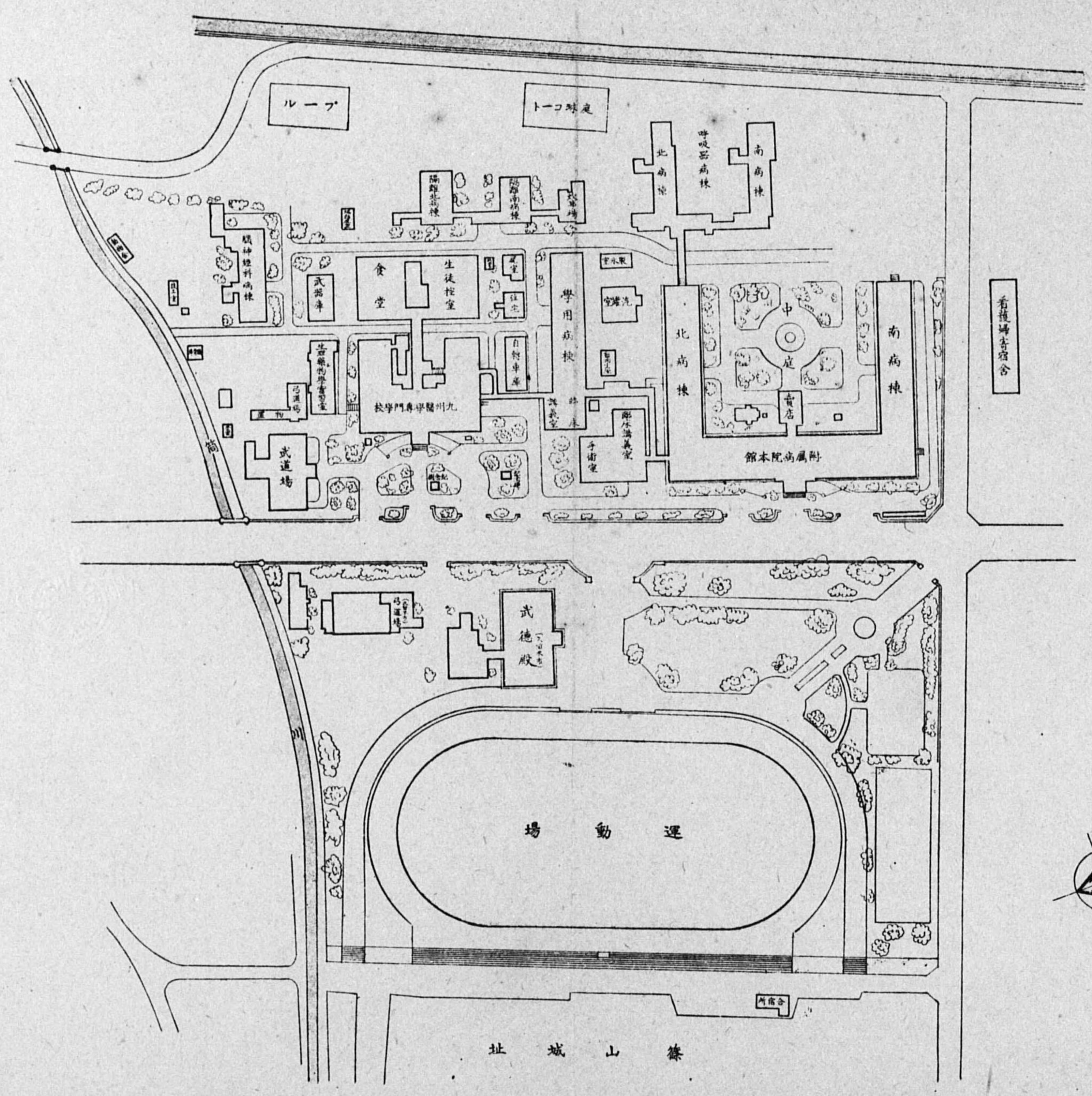
一、十月十八日(水) 物故教職員慰靈祭 於梅林寺

その際委員の變更があつたが、更に昭和十四年九月二十六日最後

る人ぞ知るである。それは終つたが十周年記念誌の原稿は完成してゐない。晝夜兼行で、東奔西走して漸く原稿の整理を了へて發送した、然るに金原商店からは既に一ヶ月を経過したが見算書が来ない、過去二年間の努力の結晶を見んものと最後の頑張を懸念に押し徹してゐるもの、不安はひし／＼と編者の胸にせまるを如何せむ。遂に最後の仕上として補充の原稿と口繪寫眞とを送附してその成行を待つ。とはいへ必らずや金原商店の義侠により發行實現することを信じて疑はなかつたのである。すると果して念願は容れられた。全く感謝の外はない。

さもあらばあれ、今日ここまで仕事が進んだのは全く各方面の方々が絶大の御援助を寄せられたからである。この期に臨んで諸賢に對し編者の立場から深甚なる感謝の意を表する。

殊に編輯に校正に凡ゆる協力を惜まれなかつた森永氏に衷心より感謝する。終りに臨みて一言御詫び申したい。それは種々の事情により、原稿を選択する必要を生じ、爲めに折角の玉稿を載せ得ざる苦しい羽目に陥ちて、その方々に對して何とお詫びの申上げやうもないことあります。何卒編者の立場を御賢察の上御容赦願ひます。(磯部記)



九州醫學專門學校建物配置圖

昭和十五年六月十五日印刷
昭和十五年六月二十日發行

(非賣品)

編輯者 磯部 幸一

印刷者 須藤 紋一
東京市神田區錦町三丁目十一番地

印刷所 金原商店印刷部
東京市本郷區湯島切通坂町二一

久留米市旭町

發行所 九州醫學專門學校

IT 5K 72

六
十
五

終

